



山形のシシ踊りガイドブック

―楽しく見るための手引書―









シシ踊りを活用した
地域活性化実行委員会

山形のシシ踊りガイドブック

―楽しく見るための手引書―

目次

シシ踊りとは何か …… 4

〔村山地区〕

鹿楽招旭踊 …… 6
高擶聖霊菩提獅子踊 …… 7
土橋獅子踊 …… 8
旭一流内楯獅子踊 …… 9
角田流八ツ沼獅子踊 …… 10
角田流大谷獅子踊 …… 11
左沢三区獅子舞 …… 12
深沢獅子踊 …… 13
長瀞猪子踊 …… 14
沢渡獅子舞 …… 15
天神湯野沢鹿子踊 …… 16
稲下鹿子踊 …… 17
長島鹿子舞 …… 18
深沢豊年獅子踊 …… 19
上中原奈良朝鹿ノ子舞 …… 20

〔最上地区〕

萩野鹿子踊 …… 21
仁田山鹿子踊 …… 22

〔置賜地区〕

万世梓山獅子踊（上組） …… 23

万世梓山獅子踊（下組）……24
綱木獅子踊……25
小松豊年獅子踊……26
中獅子踊……27
平山獅子踊……28
五十川獅子踊……29
勧進代獅子踊……30
舟渡獅子踊……31
〔庄内地区〕
添川両所神社御獅子舞……32
東堀越獅子踊……33
渡前獅子踊……34
八色木獅子踊……35
木野俣獅子踊……36
青沢獅子踊……37
桜林獅子踊……38
鹿島獅子踊……39
仲町獅子踊……40
清川獅子踊……41
四ヶ村獅子踊……42
家根合獅子踊……43
古関獅子踊……44
西袋獅子踊……45
余目新田獅子踊……46
吉岡・生三獅子舞……47
大谷獅子踊・新田目獅子踊（中断中）……48
資料編……49
子どもシシ踊り（11団体）……50
山形県シシ踊りマップ……56
山形県内のシシ踊り一覧……57
シシ踊りを活用した
地域活性化実行委員会について……58

シシ踊りとは何か

1 「シシ踊り」と「獅子舞」のちがい

シシ踊りの「シシ」とは、日本に生息する猪（イノシシ）・鹿（カノシシ）・かもしか（アオシシ）などの野生動物を意味します。それらの動物をモデルにしたカシラを一人で被って、体をおおう幕の中で太鼓を鳴らしながら踊るのがシシ踊りの基本形です。シシ踊りは本来東日本にのみ分布する芸能ですが、江戸時代に愛媛県や福井県に伝播した特殊例もみられます。

一方「獅子舞」という芸能もありますが、シシ踊りとは本来異なり日本には生息しない百獣の王であるライオンがモデルになっています。発祥は中国であり東アジアに伝播して現在も広く分布しています。日本に獅子舞が伝来したのは飛鳥時代の６１２年です。

東北地方のシシ踊り
文化圏概念図
菊地和博『シシ踊り』より引用



2 東北と関東のシシ踊りのちがい

東北地方では、シシ踊りは死者の鎮魂や先祖供養のために踊られてきました。特にお盆の鎮魂供養として、青森県・岩手県・秋田県では墓地や遺影の前で演じるシシ踊りが現在も多くみられます。またシシの頭数は五頭・七頭・八頭を一組とする踊りが多いです。一方、関東地方では、シシ踊りの目的は悪魔払いや雨乞いあるいは疫病払いなどのために踊られてきました。供養の目的は北関東の一部を除きまったくみられません。また頭数も三頭を一組とする踊りがほとんどです。

3 山形県内のシシ踊りの特徴

⑴ 村山地区

村山地区のシシ踊りは、江戸時代から旧暦七月七日に死霊の山である立石寺山寺で死者の供養踊りを行なう慣習をもっていました。この慣習は今なお一部継承されています。共通点はシシ七頭が多く、カシラは鼻が突き出ているイノシシ型です。シシ踊りは雌シシ一頭が基本ですが、これらの山寺系シシ踊りにはなぜか雌シシ二頭が存在する団体が多く、きわめて異例です。また、シシは立石寺から授かった斧を背負っていることも大きな特徴です。

⑵ 最上地区

最上地区は二団体存在しますが、芸態は

とても類似しており、カモシカの群れ、遊ぶさまを演じた伝承も共通しています。カモシカを模した小型のカシラは大変めずらしいものです。

(3) 置賜地区

ほぼ共通する点は次のようなものです。シシは関東系の三頭で、先頭に大小の「まとい」「田楽提灯」をかかげ、数名の花笠（早乙女）・踊り子がシシの後方で盛んに動きながら太鼓を打ち鳴らします。演技の途中に「ほめ言葉」が入り、それに対する「返し言葉」もあります。

また、米沢市以外のシシ踊り団体の共通性として以下の点があげられます。リード役・道化役の「面すり（ササラスリ）」が存在し、「火の輪（花輪）くぐり」の曲技を演じます。シシは腹に太鼓をもちません。花笠（早乙女）・踊り子の衣裳が華やかですが、シシはやや地味でありモンペをはいています。長い幕を両手で左右に揺らしながら踊る幕踊り系です。

(4) 庄内地区

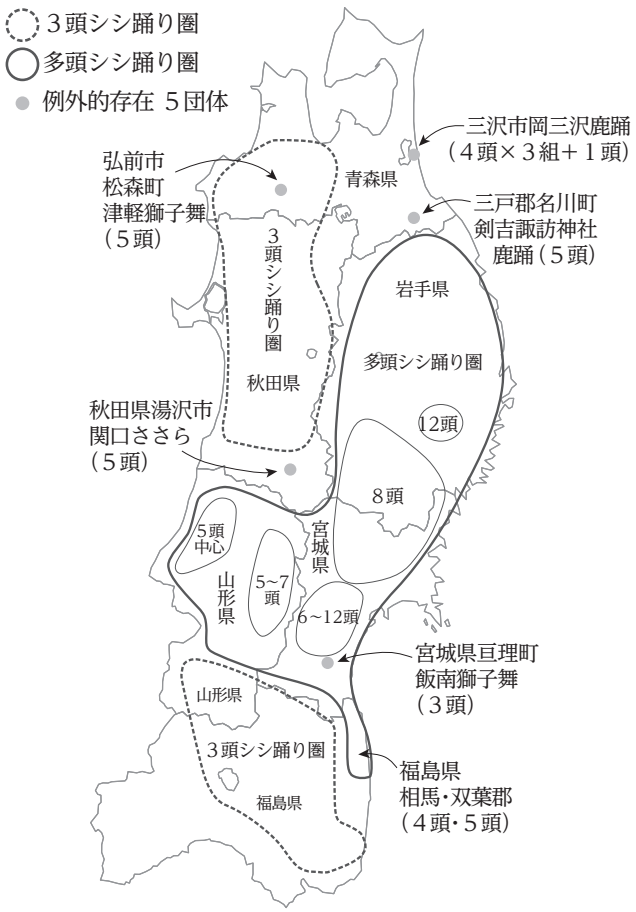
大きな相違点は、最上川をはさんで北部・飽海郡エリアと南部・田川郡エリアに大別されることです。飽海郡エリア（酒田市＝旧酒田市・旧平田町・旧八幡町）にほぼ共通する点をあげてみると、シシは五頭または六頭です。カシラは山鳥の羽根を立てています。美しい四角形の花笠をかぶる「中踊り（中立ち）」がリード役となる場合があります。寺院の「施餓鬼旗（せがきばた）」を背にもつ団体（青沢獅子踊・新田目獅子踊）が存在します。

一方、田川郡エリア（庄内町や鶴岡市）にほぼ共通する点をあげてみると、シシのカシラにツノ以外に兜の前立に似たものを二本立てています。太鼓はシシの幕の中で竹ワク付きの太鼓を打ち鳴らします。華麗なササラすりは女児が多く、シシと対決し退治する太刀使い・棒使いは男児です。「精入れ」「精抜き」など、始まりと終わりの厳格な儀礼があります。本家筋と弟子筋の関係が明確です。

なお、両エリアに属さない例外的存在として鶴岡市（旧温海町）の木野俣獅子踊があげられます。

東北地方のシシ踊り
頭数分布圏概念図

菊地和博『シシ踊り』より引用



村山地区・山形市
鹿楽招旭踊
（からおぎあさひおどり）



7頭で演じるシシ踊りです。シシの目は吊り上がって鼻は猪のようにやや前に突き出る形状を示していますが、このようなカシラは、旧暦7月7日に山寺立石寺に奉納踊りを行ってきた村山地方の多くの山寺系シシ踊りにほぼ共通しています。この系統のシシ踊りは、いずれも山寺からいただいた木製の斧を背中に持っているのが特徴です。踊りは「道太鼓」「庭歌」「剣の舞」「カカシ」の4演目からなります。笛・太鼓のお囃子もつきます。以前は「回向歌」もあり、「このなよ 御前は 磐司の御前よ 獅子がなよ 参りきて 拝み上げます南無阿弥陀仏」という特徴的な供養の文言がありました。





シシの背中にあるのは斧と御幣（ごへい）である。斧は木製・小型のもので山寺立石寺にいただいたものである。

公演日

7月中旬紅花まつり

主な公演場所

山形市高瀬地区

主な公演場所への交通アクセス

JR仙山線
- 高瀬駅より徒歩 …… 20分
- 山形駅よりタクシー …… 25分

山交市コミュニティバス高瀬線
- 元高瀬公民館前バス停より徒歩 …… 5分

問い合わせ先

山形市教育委員会社会教育青少年課
TEL.023-641-1212（内）626

村山地区・天童市

高擶聖霊菩提獅子踊

たかだましょうりょうぼだいししおどり



天保12年（1841）に中山町土橋のシシ踊りを高擶住民が習い受け伝承してきたものといいます。途中幾度も中断を繰り返してきましたが、平成10年に再復興をとげて現在に至っています。「聖霊菩提」の名称こそ、シシ踊りという芸能が死者供養・先祖供養を目的として踊られることをたんてきに物語っています。旧暦7月7日には山寺立石寺に奉納踊りをしてきました。踊りはシシ7頭の構成です。そのほかに笛・太鼓・歌などがつきます。演目は11を数えます。



シシはワラ人形を一瞬のうちに倒してしまう。現在は「悪霊払い」を意図しているが、本来はカカシを倒す所作を表している。

なかでも「かかす（かかし）」の演目では、踊りの庭に立てかけられた小型のワラ人形を近づいたシシが瞬間的に倒す所作が注目されます。



公演日

8月22日

主な公演場所

天童市高擶字新町　河上神社

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線

天童駅よりタクシー …… 15分

高擶駅より徒歩 …… 25分

山交バス

高擶十日町停留所より徒歩 …… 5分

問い合わせ先

天童市教育委員会生涯学習課文化財係

TEL.023-654-1111（内）833

村山地区・中山町

土橋獅子踊（つちはししおどり）



寛文12年（1672）に土橋の住民佐藤藤作が福井県の永平寺より獅子踊りの免許皆伝をいただき当地にもたらされたという言い伝えもあります。それを記したとされる巻物も保存されております。大正11年に秩父・高松両殿下のご高覧にもあずかる栄誉に輝いております。高擶聖霊菩提獅子踊の名称のもとになったように、土橋獅子踊は元来「聖霊菩提踊」とよばれて死者や祖先の霊を鎮魂供養して、家の代々繁盛を祈願する踊りでした。旧暦7月7日には山寺立石寺に奉納踊りをしてきました。踊りはシシ7頭の構成です。そのほかに笛・太鼓などがつきます。演目は19を数えます。





位牌を前にして亡くなった方の供養を行う。シシ踊りが死者の鎮魂供養の踊りであったことを端的に示している。

公演日

5月3日

主な公演場所

中山町土橋　玉昌寺

主な公演場所への交通アクセス

JR左沢線
寒河江駅より徒歩 …… 25分

問い合わせ先

中山町教育委員会教育課生涯学習グループ
TEL.023-662-2235

村山地区・寒河江市

旭一流内楯獅子踊（あさひいちりゅううちだてししおどり）



延宝3年（1675）に寒河江地域が天候不順で米が不作だったときに、寒河江八幡宮の氏子たちが17日間の豊作祈願を行いました。その際に、「妙見菩薩伝来の旭踊を神前に奉納すれば不作をまぬがれるだろう」とのお告げがあったので、山原村（現山形市妙見寺）の師匠木川久四郎から旭踊（朝日根元舞）を習い受けて踊ったのが始まりと伝えられています。踊りは四隅に竹を立て注連縄を張った中で行われますが、個人の自宅敷地に用意された遺影や位牌の前では仏供養の踊りを行います。踊りは7頭のシシで構成され、その他に笛・太鼓・鉦打ち（少年）・ササラ（少女）・歌のお囃子がつき、演目は10を数えます。





亡くなった方の遺影を前に近づいて弔いの踊りを行う。このような供養の場面は山形県内ではほとんど見られなくなった。

公演日

9月中旬（4年毎）寒河江まつり

主な公演場所

寒河江市内楯内楯地区～寒河江八幡宮

主な公演場所への交通アクセス

JR左沢線

羽前長崎駅よりタクシー …… 5分

徒歩 …… 20分

問い合わせ先

寒河江市教育委員会生涯学習課歴史文化係

TEL.0237-86-8231

村山地区・朝日町

角田流八ツ沼獅子踊（かくたりゅうやつぬましおどり）



由来伝承として、天文年間（1532～1554）に八ツ沼城主甲斐守平重忠が家臣松田忠利に命じて、角田（現宮城県角田市）から楽士を招いて伝習させたのが始まりだとされています。シシはなぜか置賜地方に多くみられる3頭の構成となっています。3頭以上のシシが多い村山地方の中では大谷獅子踊とともにめずらしいものです。このシシ3頭はいずれも子どもたちが演じているのが特徴です。そのほかに笛と太鼓の囃子がつきます。太鼓は顔を覆った花笠を被った3人が動きを伴いながら演じます。演目は上巻の踊り19と下巻の踊り12の多くを継承しています。





子どもたちによるシシの演技である。大人が奏でる笛と太鼓のお囃子に合わせて、子どもたちはきびきびとした動きを見せる。

公演日

閏年旧暦8月15日

主な公演場所

朝日町三中字八ツ沼　春日神社

主な公演場所への交通アクセス

JR左沢線
　左沢駅よりタクシー …… 20分

山交バス
　朝日町役場前停留所よりタクシー …… 5分

問い合わせ先

朝日町教育委員会教育文化課
TEL.0237-67-2118

村山地区・朝日町

角田流大谷獅子踊（かくたりゅうおおやしししおどり）



由来伝承の一つは、文化年間（1804年~1817年）に、天満宮の神官であった白田家31代外記清安が仙台藩角田村（現角田市）の切幕の獅子を取り入れたのが始まりであるというものです。角田流八ツ沼獅子踊にも角田村伝承があり、両者には共通するものがあるようです。この踊りもシシ3頭の構成となっていて、置賜地方の影響を受けたことが考えられます。太鼓は4人ですが、赤い垂れ幕で顔を覆う花笠を被りながら動作を交えて叩くのが印象的です。8月16日の送り盆で永林寺の敷地内で踊られますが、お盆の時期に寺院で踊るシシ踊りは、山形県内では当団体のみとなりました。演目は8つを数えます。





シシは幕を左右に大きく揺り動かしながら踊る。シシ三頭や花笠役の存在などは隣接する置賜地域の影響を受けたと考えられる。

公演日

8月16日（送り盆）

主な公演場所

朝日町大谷　永林寺

主な公演場所への交通アクセス

JR左沢線
　左沢駅よりタクシー …… 10分

山交バス
　大谷停留所より徒歩 …… 10分

問い合わせ先

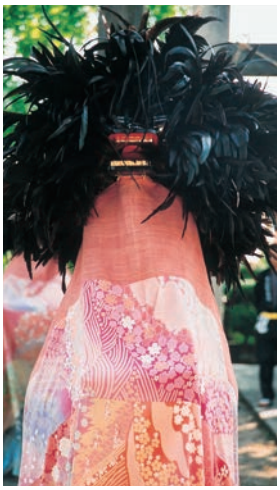
朝日町教育委員会教育文化課
TEL.0237-67-2118

村山地区・大江町

左沢三区獅子舞（あてらざわさんくししまい）



「獅子舞」と称していますが、実際はシシ踊りに分類されます。町内の原町3区の方々が担っていることから付けられた名称です。由来伝承は、楯山城主大江氏が最上川の桜瀬付近で水難事故が続発したので元屋敷に波切不動尊を祀って舟の航行安全を祈願し、さらに山形市妙見寺のシシ踊りから分霊して川筋の悪霊退散を祈らせたのが起源とされています。踊りは7頭のシシで構成されています。笛、太鼓のお囃子がいますが、さらに2人の子どもが担う鉦打ち役がいます。頭巾を被り陣羽織を着用した可憐な姿ですが、前列のシシに合わせた動きを伴い重要な役割を持っています。演目は8つを数えます。





シシの演技とともに、頭巾を被った「鉦打ち」の子ども二人が大切な役割を担っていることが注目される。

公演日

9月中旬おおえ秋まつり

主な公演場所

大江町左沢 左沢地区（町内・JR左沢駅前）

主な公演場所への交通アクセス

JR左沢線
左沢駅より徒歩 …… 0分

山交バス
左沢駅前停留所より徒歩 …… 0分

問い合わせ先

大江町教育委員会教育文化課歴史文化係
TEL.0237-62-3666

村山地区・大江町

深沢獅子踊（ふかさわししおどり）



大江町三郷地区の人々が担っています。由来伝承は明らかではありませんが、大正4年の地元にある記録では、山寺から伝承されてすでに江戸時代中期には踊られていたといいます。太鼓には明治11年に踊った人々の名前が記されています。かつてはお盆の8月14日に深沢の集落の家々の縁側に出された先祖の位牌を前に踊り、一軒一軒を供養して回っていました。さらにお彼岸のときも踊ったといいます。踊りは7頭のシシで構成されています。笛・太鼓・歌のお囃子がつきますが、三区獅子舞と同じく、2人の子どもが担う鉦打ち役がいます。演目は23を数えます。





写真右から二頭目のシシのカシラ中央部には「南無阿弥陀仏」と記された木札が掲げられていることに留意したい。

公演日

9月中旬おおえ秋まつり

主な公演場所

大江町左沢 左沢地区（町内・JR左沢駅前）

主な公演場所への交通アクセス

JR左沢線
左沢駅より徒歩 …… 0分

山交バス
左沢駅前停留所より徒歩 …… 0分

問い合わせ先

大江町教育委員会教育文化課歴史文化係
TEL.0237-62-3666

村山地区・東根市

長瀞猪子踊（ながとろししおどり）



長瀞の土地は、かつて山寺立石寺を開山した慈覚大師（円仁）によって開かれた肥沃なところだという伝説があります。シシ踊りも慈覚大師開山の折りに先導役をはたした猪や鹿など動物の喜びの姿を表したものとされています。シシを「猪子」と表すのは、そのような由来伝承にちなむようです。長源寺で十念を授かり、南無阿弥陀仏の名号を受け、シシのカシラに精霊を入れてから踊り始めるのが習わしです。旧暦7月7日には山寺で死者供養のための踊りを奉納してきました。踊りはシシ8頭の構成ですが、そのほかに鉦打ち・笛・太鼓・ササラ・歌など数人のお囃子がつきます。演目は12を数えます。





リズミカルな楽曲に合わせて、シシや「鉦打ち」はじつに軽やかな動きを繰り広げる。飛び跳ねる瞬間のみごとさは観客をうならせる。

公演日

4月第2日曜日

主な公演場所

東根市長瀞　日枝神社

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
東根駅よりタクシー …… 5分
徒歩 …… 18分

問い合わせ先

東根市教育委員会生涯学習課
TEL.0237-42-1111（内）3537

村山地区・東根市
沢渡獅子舞（さわたりししまい）



「獅子舞」と称しますが、実際はシシ踊りに分類されます。江戸時代に山寺立石寺からもたらされたという伝承がありますが、一方では御所山や黒伏山の山岳信仰が盛んだった時期に沢渡地区が登拝口の一つであり、そこを行き来する修験者によって伝えられたともいわれています。旧暦7月7日には山寺で死者供養のための踊りを奉納してきました。踊りはシシ5頭の構成ですが、そのほかに鉦打ち・笛・太鼓・ササラ・歌などのお囃子がつきます。シシの先頭には大斧を持って赤い鼻高面をかぶった先導役が登場するのが特徴です。演目は8つを数えます。





雄ジシと雌ジシの交尾を暗示させる所作である。他のシシ踊りには見られない象徴的なものであり、シシが野獣であることを物語っている。

公演日

9月第2または第3日曜日

主な公演場所

東根市泉郷字入　稲荷神社

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
さくらんぼ東根駅よりタクシー …… 5分

問い合わせ先

東根市教育委員会生涯学習課
TEL.0237-42-1111（内）3537

村山地区・村山市

天神湯野沢鹿子踊（てんじんゆのさわかのこおどり）



江戸時代、石井喜蔵と喜六という村の若者が山寺立石寺の磐司祭に行ってシシ踊りを見学、それを見て感動して踊り始めたのが起源とされています。確かに、山寺立石寺では江戸時代から村山地域のシシ踊り団体が旧暦7月7日の磐司祭で、死者の鎮魂供養の奉納踊りを行ってきたことは記録のうえで明らかです。明治以降では20数団体が山寺に集まっていたこともわかっています。名称に「天神」がつくのは、村の天満神社の祭神である天神様の祭日に奉納してきたからです。踊りはシシ7頭の構成で、笛・太鼓・鉦打ち・ササラ・歌のお囃子がつきます。演目は12を数えます。





シシとともに「鉦打ち」の存在が目立つ。陣笠を被った四人がシシの動きとほぼ同じく左右に体を大きく揺らし舞踊のように豊かに踊る。

公演日

不定期（地区内の行事や祝い事）

主な公演場所

村山市湯野沢　天満神社

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
村山駅よりタクシー …… 20分

問い合わせ先

村山市教育委員会生涯学習課文化係
TEL.0237-55-2111（内）333

村山地区・村山市

稲下鹿子踊（いなくだしししおどり）



「鹿子」と記してシシと読みます。江戸時代に冷害で飢饉が頻発するなかで、天保11年（1841）に豊作を祈願するねらいで始まったと伝えられています。かつて妙見寺村（現山形市妙見寺）にあった朝日根元舞（旭踊）＝妙見寺獅子踊を家元（本家）としており、その影響の下にあったシシ踊り団体の一つです。旧暦7月7日には山寺立石寺に奉納踊りをしてきました。明治5年（1872）に第1期連の団体が結成されて以来、平成23年10月まで15期連が続きました



が、現在は休止しています。踊りはシシ6頭の構成ですが、そのほかに鉦打ち・太鼓・ササラ・笛・歌など数人のお囃しがつきます。演目は15を数えます。



ついシシや「鉦打ち」の動きに目がいくが、「太鼓打ち」の独特なバチさばきも注目される。その打ち方や作法にシシ踊り団体の特徴が表れる。

公演日

不定期（地区内の行事や祝い事）

主な公演場所

村山市稲下　稲荷神社

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
　村山駅よりタクシー …… 15分

問い合わせ先

村山市教育委員会生涯学習課文化係
TEL.0237-55-2111（内）333

村山地区・村山市
長島鹿子舞（ながしましかまい）



由来伝承は、江戸時代には踊られていたというものの、古い記録はなくほとんど不明です。「獅子舞」と称していますが、シシ踊りに分類されます。明治以降の記録は残っており、主なもので明治35年に楯岡大火後の地固め、日清・日露戦争の戦勝記念、大正3年天皇の即位式、昭和4年の天皇の即位式などで踊っています。昭和38年にいったん途絶え、昭和56年に復活をとげていますが近年は踊られておりません。踊りはシシ6頭で構成されていますが、その他に笛・太鼓・鉦打ち・ササラ・歌のお囃子がともないます。シシの顔面が白っぽいのが大変印象深いです。演目は20を数えます。





大太鼓を打ち鳴らす一方で、シシは腹太鼓（羯鼓）を小バチでみずから打ちながら踊る。腹太鼓は省略されている事例もあるが、持つのが基本形である。

公演日

不定期（地区内の行事や祝い事）

主な公演場所

村山市長島 長島地区

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
村山駅よりタクシー …… 15分

問い合わせ先

村山市教育委員会生涯学習課文化係
TEL.0237-55-2111（内）333

村山地区・村山市

深沢豊年獅子踊（ふかさわほうねんししおどり）



かつて地元の青柳重右衛門の先祖が左沢方面からシシ踊りを習ってきて始めたのが起源であると伝えられています。伝書の表紙には文化元年（１８０４）とあるので江戸時代後期には踊られていたことが考えられます。腰には斧を持っていることから、山寺立石寺への奉納踊りを行っていたことをうかがわせます。演目にはめずらしい「まんのかかし」というものがありますが、天童市の高擶聖霊菩提獅子踊の「かかす（かかし）」と似通った内容を感じることができます。踊りは5頭のシシで構成され、笛・太鼓・鉦打ち・ササラ・歌の囃子もつきます。演目は15を数えます。





シシの前に立てられている「カカシ」は、現在ではかなり抽象化した形となっている。高擶聖霊菩提獅子踊の演目「かかす（かかし）」と同じ造形物である。

公演日

不定期（地区内の行事や祝い事）

主な公演場所

村山市富並字深沢　山王神社

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
村山駅よりタクシー …… 20分

問い合わせ先

村山市教育委員会生涯学習課文化係
TEL.0237-55-2111（内）333

村山地区・村山市

上中原奈良朝鹿ノ子舞（かみなかばらならちょうかのこまい）



「鹿ノ子舞」と称しますが、シシ踊りに分類されます。伝承として、奈良大和の生駒村（現奈良県生駒市）から来村した人がシシ踊りを伝授したことに起源をもつといわれています。奈良大和にちなんで「奈良朝」と名づけたものと思われます。しかし、シシのカシラ造形、長幕やもんぺ姿、お囃子の構成などからは、村山地域で山寺立石寺に奉納踊りを行ってきたシシ踊りと同系統のものと考えられます。シシのカシラは大型につくられていますが、特に白色の顔面は村山市の長島獅子舞と同じくめずらしい存在です。踊りはシシ5頭の構成で、その他に笛・太鼓・鉦打ち（少年）・ササラ（少年）・歌のお囃子がともなっています。





少年たちは「ササラ摺り」と「鉦打ち」の役目をおっている。ササラは他の団体に比べると、かなり細い竹を使用しているのが特徴である。

公演日

不定期（地区内の行事や祝い事）

主な公演場所

村山市上中原 上中原地区

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
村山駅よりタクシー …… 20分

問い合わせ先

村山市教育委員会生涯学習課文化係
TEL.0237-55-2111（内）333

最上地区・新庄市

萩野鹿子踊（はぎのししおどり）



萩野地区と仁田山地区に継承されてきたほぼ同じ2つのシシ踊りは、昭和41年に「萩野・仁田山鹿子踊」として同時に山形県無形民俗文化財に指定されました。この鹿子（シシ）踊りの起源伝承の一つに、集落近くの小倉山に群れ遊ぶカモシカを真似て始まったというものがあります。したがってシシの頭はカモシカをモデルにした小型のきわめてめずらしいものです。山形県内で猪や鹿を原型とした抽象的造形のカシラが多い中では特殊といえます。この踊りはシシ7頭の構成です。シシは背中に「小倉山」「五月風」「十日雨」などと記された旗指物を腰にして踊ります。そのほかに歌い手（地方）2人がいます。編み笠を被った歌い手は、太い竹を割って作ったササラを摺りながら歌います。演目は6つを数えます。





雄ジシ同士が雌ジシをめぐって争いをしている所作であり、一般に演目は「雌ジシ隠し」「雌ジシ狂い」などの名称が多い。

公演日

8月26日新庄まつり

主な公演場所

新庄城址（戸沢神社・護国神社）

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線・陸羽東線・陸羽西線

新庄駅よりタクシー …… 5分

徒歩 …… 15分

問い合わせ先

新庄市教育委員会社会教育課

TEL.0233-22-2111（内）461

最上地区・新庄市

仁田山鹿子踊（にたやましししおどり）





雄ジシ同士が雌ジシをめぐって争いをしている所作であり、一般に演目は「雌ジシ隠し」「雌ジシ狂い」などの名称が多い。

萩野地区と仁田山地区に継承されてきたほぼ同じ2つのシシ踊りは、昭和41年に「萩野・仁田山鹿子踊」として同時に山形県無形民俗文化財に指定されました。この鹿子（シシ）踊りの起源伝承の一つに、集落近くの小倉山に群れ遊ぶカモシカを真似て始まったというものがあります。したがってシシの頭はカモシカをモデルにした小型のきわめてめずらしいものです。山形県内で猪や鹿を原型とした抽象的造形のカシラが多い中では特殊といえます。この踊りはシシ7頭の構成です。シシは背中に「小倉山」「五月風」「十日雨」などと記された旗指物を腰にして踊ります。そのほかに歌い手（地方）2人がいます。編み笠を被った歌い手は、太い竹を割って作ったササラを摺りながら歌います。演目は6つを数えます。（荻野鹿子踊と同文）



公演日

8月15日、8月26日新庄まつり

主な公演場所

新庄市仁田山地蔵堂、新庄城址（戸沢神社・護国神社）

主な公演場所への交通アクセス

15日　JR奥羽本線・陸羽東線・陸羽西線
新庄駅よりタクシー……　20分
市営バス　仁田山停留所よりすぐ

26日　JR奥羽本線・陸羽東線・陸羽西線
新庄駅よりタクシー……　5分
徒歩……　15分

問い合わせ先

朝日町教育委員会教育文化課
TEL.0237-67-2118

置賜地区・米沢市

万世梓山獅子踊（上組）



保存会は一つですが、組織的には上組・下組の2つに分かれて活動しています。2組ともに三頭シシ踊りです。栃木県今市市手岡地区を発祥地とする文挟流の流れを汲んでいることは、特に上組の「天下一関東文挟流獅子踊」と述べる口上からうかがえます。一方、喜多方の下柴村古橋角太夫から伝授された文書（文政11年8月）が上組・下組双方に残されています。このことから当シシ踊りは、継承過程で会津彼岸獅子の影響も受けているといえます。梓山獅子踊の上組・下組ともに寛政9年（1797）に復興をとげているのが共通しています。



集団の先頭に立つのが「まとい持ち」であり、踊りに先立ち朗々と口上も述べる。大小のまといは当地域の三頭シシ踊り集団に特徴的にみられる。

上組は一般に勇壮活発な踊りと評され、演目には梵天舞・花吸舞・鶏徳舞があります。他方、下組は優雅な踊りと評され、演目には春日舞・大和舞・三笠舞が継承されています。



公演日

8月16日

主な公演場所

米沢市万世町梓山　法將寺

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
米沢駅よりタクシー …… 15分
徒歩 …… 70分

市民バス
梓山停留所より徒歩 …… 3分

問い合わせ先

米沢市教育委員会教育管理部文化課
TEL.0238-21-6111 (内) 7531

置賜地区・米沢市

万世梓山獅子踊（下組）



保存会は一つですが、組織的には上組・下組の2つに分かれて活動しています。2組ともに三頭シシ踊りです。栃木県今市市手岡地区を発祥地とする文挟流の流れを汲んでいることは、特に上組の「天下一関東文挟流獅子踊」と述べる口上からうかがえます。一方、喜多方の下柴村古橋角太夫から伝授された文書（文政11年8月）が上組・下組双方に残されています。このことから当シシ踊りは、継承過程で会津彼岸獅子の影響も受けているといえます。梓山獅子踊の上組・下組ともに寛政9年（1797）に復興をとげているのが共通しています。

上組は一般に勇壮活発な踊りと評され、演目には梵天舞・花吸舞・鶏徳舞があります。他方、下組は優雅な踊りと評され、演目には春日舞・大和舞・三笠舞が継承されています。（上組と同文）





シシ三頭や花笠（太鼓打ち）の数人は、いずれも小学生が演じるのが特徴である。

公演日

8月15日

主な公演場所

米沢市万世町梓山　松林寺

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
米沢駅よりタクシー …… 15分
徒歩 …… 75分
市民バス
松林寺口停留所より徒歩 …… 10分

問い合わせ先

米沢市教育委員会教育管理部文化課
TEL.0238-21-6111（内）7531

置賜地区・米沢市

綱木獅子踊（つなぎししおどり）



3頭は中ジシ（雌獅子）、先ジシ（雄獅子）、後ジシ（雄獅子）と称しますが、鳥毛でおおわれたシシ頭をかぶり腹には太鼓をつけています。3頭ともに衣装は青地に赤色の牡丹模様が鮮やかにデザインされています。かつて公演は8月14日～16日の3日間にわたり、集落にある円照寺境内と各戸を訪問して踊り続けていました。家の仏間でシシの踊りが終わればきまってもてなしを受けました。シシをもてなすことが仏の供養とされたのでご馳走は各家々で盛大にふるまわれました。演目は「関東肥挟踊り」（20曲目）、「角田中村踊り」（10曲目）、「十七くだり」（10曲目）の3つをもっています。お囃子の行列は大まとい・小まとい・横笛・太鼓・唄いなど10数人で構成されます。本来は6尺棒を持つ袴姿の「警護」が先頭に立ち、大まとい持ちは奴姿だったといいますが、いずれも現在は省略されています。





写真右手で後獅子（雄ジシ）と中獅子（雌ジシ）が背中合わせをして、その左手で先獅子（雄ジシ）が小刻みに周囲を動き回る、という珍しい場面である。

公演日

8月15日

主な公演場所

米沢市綱木　円照寺跡地

主な公演場所への交通アクセス

JR奥羽本線
米沢駅よりタクシー …… 40分

問い合わせ先

米沢市教育委員会教育管理部文化課
TEL.0238-21-6111（内）7531

置賜地区・川西町

小松豊年獅子踊（こまつほうねんししおどり）



３頭のシシ（雄ジシ・雌ジシ・ともジシ）で構成される。シシは太鼓をもたず、両手で垂れ幕の左右の端を握って振り回します。このほかに菅笠を被り白幕を垂らして顔をおおう踊り子５人と、六角の笠を載せ赤幕を垂らして顔をおおう花笠２人がいます。いずれも美しく色彩が豊かな衣装を身にまとい、腹に太鼓をかかえて移動しながら打ち鳴らします。この他に、かつてメンスリというヒョットコ面の道化役もいました。特に雌ジシが燃え盛る火の輪をくぐる場面は観衆をわかせます。



シシは実際に燃え盛る焔の輪を飛んでくぐり抜ける。この曲技は最大の見せ場であるが、会津彼岸獅子がもつ「弓くぐり」の演目に相当する。

演目は「お庭廻り」「獅子出し」「中の庭」「草入れ」「雌獅子の狂い」「花吸い」（花据え）などがあります。毎年８月16日に上小松の松光山長岡寺大光院の本堂前庭と、裏山にある地蔵堂（赤お堂）前で演じています。この日は大光院の精霊祭ですが、そこで死者供養のシシ踊りが演じられているのです。



公演日

8月16日、8月27日

主な公演場所

川西町上小松　大光院、川西町上小松　諏訪神社

主な公演場所への交通アクセス

JR米坂線

羽前小松駅よりタクシー …… 5分

徒歩 …… 75分

問い合わせ先

川西町まちづくり課生涯学習グループ

TEL.0238-42-6668

中獅子踊（なかししおどり）

置賜地区・飯豊町



当獅子踊に関する明治19年の記録が残されているので、その頃には存続していたことになります。その記録には、「踊り宿」として船山荘四郎の名が記され、シシ頭は最上天上という獅子細工人によるとあります。また「獅子踊り連番帳」を作ってそれに捺印して獅子踊り連中というグループを結成していたことも記されています。かつては「踊り宿（宿元）」制があって用具類一式を船山家に保管し、その庭でシシ踊りを披露したといいますが、現在はその制度はなくなっています。3頭のシシ踊りですが、その他に笛5人、女装した太鼓打ち7人、メンスリ1人、唄い手8人も加わっています。まとい持ちもいますがこれは置賜地方のシシ踊りの特色です。演目は「前の庭」「後の庭」「花すえ」「三角踊り」「火の輪くぐり」などがあります。





草鞋にモンペ姿であり、体を覆う幕が比較的短いことや、シシの大きく前に足を上げて回す躍動感のある動きが特徴である。

公演日

8月14日

主な公演場所

飯豊町中地区

主な公演場所への交通アクセス

JR米坂線

萩生駅よりタクシー …… 10分

徒歩 …… 20分

問い合わせ先

飯豊町教育委員会生涯学習振興室

TEL.0238-72-3111

置賜地区・長井市

平山獅子踊（ひらやましおどり）



３頭のシシ踊りですが、シシのほかに花笠を被り華やかに女装した踊り子（太鼓打ち）が７人います。踊り子は腹にかかえる太鼓を打ち鳴らしながら獅子とともに踊ります。このほかに笛と唄い手の数人が加わります。演目の特徴として「火の輪くぐり」がありますが、これは川西町の小松豊年獅子踊りとも共通する演目です。いずれも越後の角兵衛獅子との関連も想定されます。ただし、現在の当獅子踊の火の輪くぐりは、花輪による「輪くぐり」となっています。「仁和賀」と書かれたまといを掲げて入場し、踊りのあいだは待機するかたちをとります。まといを掲げることは、置賜地方のシシ踊りにほぼ共通するもので、栃木県手岡市が発祥といわれる文挟流のシシ踊りの影響とも考えられますが、会津彼岸獅子にまといはみられません。平成15年には「平山獅子踊４００年祭」を行いました。





シシが火の輪に見立てた「花輪」を飛んでくぐり抜ける場面である。当地域の三頭シシ踊りを特徴づける曲技の一つである。

公演日

5月10日前後

主な公演場所

長井市平山中里　平山熊野神社

主な公演場所への交通アクセス

フラワー長井線
- 長井駅よりタクシー……11分
- 南長井駅より徒歩……40分

長井市営バス
- 桜町十字路南停留所より徒歩……7分

問い合わせ先

長井市教育委員会文化生涯学習課
TEL.0238-84-7677

置賜地区・長井市

五十川獅子踊（いかがわしし おどり）



伝承によれば、慶長10年（1605）に直江山城守家臣の青木丹波守が帰農して平山村に住んで百姓たちにシシ踊りを教えたことが始まりです。その踊りは越後から導入したものといいます。なお、青木の子孫は平山に住んで代々青木惣右衛門と称し現在まで続いています。同地区には初代青木丹波守の供養碑が造立されています。戦時中途絶えたが、昭和23年復興して今日に至っています。3頭シシ踊りであり、シシのほかに花笠を被る女装した太鼓打ちが8人とヒョットコ面で道化役のササラ摺りが1人つきます。囃子は菅笠を被る笛役が7人と唄い手7人がいます。近年中断していましたが、地域の若者の支援を受けて再び活動を再開しています。曲目の中に「玉手箱」があり、これは栃木県塩谷町の獅子踊りと同じ演目名であることが注目されますが、なぜか歌詞がまったくありません。





当地域の三頭シシ踊りに少なからず見かける道化役であり、「メンスリ」などの名称で呼ぶ場合が多い。シシたちのリード役も行う。

公演日

9月第1日曜日

主な公演場所

長井市五十川　蘊安神社

主な公演場所への交通アクセス

フラワー長井線
- 長井駅よりタクシー …… 9分
- 羽前成田駅より徒歩…… 15分

長井市営バス
- 宮内停留所より徒歩…… 5分

問い合わせ先

長井市教育委員会文化生涯学習課
TEL.0238-84-7677

置賜地区・長井市

勧進代獅子踊（かんじんだいししおどり）



伝承では、天保3年（1832）凶作飢饉に苦しんでいる住民の苦しみを和らげ、豊作を祈願するため、近くの五十川獅子踊を習って始めたといいます。

しかし、一方では、五十川獅子踊の起源と同じく文政10年に河井村（現長井市河井地区）から獅子踊りの師匠を招いて踊りを習ったのが始まりともいいます。戦前に途絶えていたものが戦後復活したがまた中断し、ようやく昭和47年に復興して現在に至っています。3頭からなるシシ踊りです。そのほか踊り子8人が太鼓を打ち鳴らしながら踊ります。囃し手として笛・唄い手がつき賑やかな踊り集団を構成します。演目として「くるい」「花吸い」「遊べ獅子」などがあります。後継者不足に悩みながらも、勧進代地区の子ども育成会に伝承活動を行い、息の長い継承活動を試みています。





シシたちの後方では、花笠に顔を隠した振り袖姿の踊り子たちが太鼓を叩きながら舞う。当三頭シシ踊りに共通するスタイルである。

公演日

8月15日

主な公演場所

長井市勧進代　勧進代総宮神社

主な公演場所への交通アクセス

フラワー長井線
- 長井駅よりタクシー …… 17分
- 白兎駅より徒歩 …… 5分

長井市営バス
- 平停留所より徒歩 …… 10分

問い合わせ先

長井市教育委員会文化生涯学習課
TEL.0238-84-7677

置賜地区・小国町

舟渡獅子踊（ふなとしし おどり）



江戸時代以前から上杉景勝が越後領内でシシ踊りを奨励・保護したといわれ、慶長3年（1598）に景勝が会津（置賜郡を含む）に移封となったことで当地方にもシシ踊りが広まったという伝承があります。舟渡獅子踊もシシ3頭であり、そのほかに女装の太鼓打ち（踊り手）8人、歌がけ10人、笛吹き8人、メンスリ（ササラ）1人がおります。公演の前に、作神である山上の沖庭山大権現に向かって必ず一番庭を奉納するのが習わしとなっています。その後、大まといを先頭に笛や太鼓を鳴らしながらシシ踊り集団が行列をなして道行きを行い、公演会場に入場するのを常としています。会場では入庭（いりは）・一番庭・二番庭・三番庭・廻り太鼓・連れ太鼓・女獅子狂い・雄獅子狂い・はね太鼓・花吸い・メンスリなどを演じます。「褒め言葉」や「返し言葉」もあります。



背中姿になっているのは道化役でありシシのリード役でもあるメンスリ（面摺り）である。見落としがちな存在であるがじつは重要な役割を演じている。



公演日

9月中旬（2年毎）

主な公演場所

小国町舟渡舟渡活性化センター

主な公演場所への交通アクセス

JR米坂線
　小国駅よりタクシー …… 15分
町営バス　北部線
　舟渡停留所より徒歩 …… 3分

問い合わせ先

小国町教育委員会事務局教育振興室
TEL.0238-62-2141

庄内地区・鶴岡市

添川両所神社御獅子舞（そえかわりょうしょじんじゃおしししまい）



「獅子舞」と名づけていますが、実際は5頭のシシが演じる「獅子踊」です。中ジシ・供の雄ジシ・白鷺ジシ・雄ジシ・雌ジシの構成です。旧藤島町と旧余目町周辺にはこの種のシシ踊り団体が多く分布し「獅子郷」といわれてきました。共通するのは、シシ頭は細長い棒状のツノをもち、体には大きな幕を垂らしてその中で太鼓を鳴らします。このシシと対決する棒使いや太刀使いの若者（子ども）、さらにササラ摺り、唄い手もいます。演目は「大踊」を基本として「橋掛り」「幕の掛り」「女獅子掛り（女獅子狂い）」があります。8月18日両所神社の例祭で奉納公演をおこなっています。



「太刀使い」「棒使い」の少年たちは、野獣であるシシたちに戦いを挑み、最後は降伏させる。



公演日

8月18日

主な公演場所

鶴岡市添川字楯の沢　両所神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線

藤島駅よりタクシー …… 20分

問い合わせ先

鶴岡市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0235-57-4868

庄内地区・鶴岡市

東堀越獅子踊（ひがしほりこししししおどり）



「獅子郷」タイプのシシ踊りです。毎年8月18日に新山神社例祭で奉納公演を行います。シシ5頭、棒使い2人、太刀使い2人、ササラ摺り2人、唄い手数人などの構成からなります。踊りの内容は添川両所獅子舞とほとんど同じといっていいくらい似通っています。東堀越小学校では、1992年から全校生徒が添川両所神社御獅子舞の学区生徒と東堀越獅子踊の学区生徒に分かれて1年生のときから踊りと演奏を習得しています。12月に入ると学校代表として活躍してきた6年生から5年生へと主役を受け渡す引継ぎ発表会も行われています。（詳細は「資料編」参照）



「ササラ摺り」を演じる男児。ササラとは竹製の楽器のことで、竹を摺り合わせると特有の音が生まれる。



公演日

8月18日

主な公演場所

鶴岡市東荒屋字押切　新山神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
藤島駅よりタクシー …… 18分

問い合わせ先

鶴岡市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0235-57-4868

庄内地区・鶴岡市

渡前獅子踊（わたまえしし おどり）



『獅子踊諸雑用控帳』に渡前獅子踊は文政10年（1827）、さらにそれ以降の江戸時代後期に幾度か踊られている記録が残っています。また近隣の宝徳からシシの頭が伝えられたとか、須走から踊りを教わったというような伝えがあります。毎年8月15日に集落の鎮守である五所神社の例祭で奉納公演をおこなってきました。渡前獅子踊は平成13年以来中断していましたが、平成23年8月に五所神社例祭で踊りを披露して10年ぶりに再開されました。平成9年から渡前小学校には「子ども獅子踊り」があり「ふじしま夏祭り・鶴岡伝統芸能祭」などで演じられています。



「ササラ摺り」の女児。花笠から衣裳までピンク色で統一した可憐な姿でシシの踊りを楽曲で支える。



公演日

8月15日

主な公演場所

鶴岡市渡前白山前　五所神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
藤島駅よりタクシー …… 10分

問い合わせ先

鶴岡市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0235-57-4868

庄内地区・鶴岡市

八色木獅子踊（やいろぎししおどり）



明治４年に初めて踊られた記録があるので、八色木獅子踊の起源はそれ以前にさかのぼることも考えられます。毎年８月17日の皇大神社と薬師神社の例祭で奉納公演を行っています。８月７日は「精入れ」の厳粛な儀礼を行ってシシ踊りが始まります。８月23日には「精戻し（精抜き）」の儀礼を行ってシシ踊りを終了することがきまりとなっていますが、このとき師匠が刀でシシのカシラを突き刺して精霊を抜く所作が演じられます。「獅子郷」のシシ踊り団体の多くは、おおよそこのような始まりの儀礼と終了の儀礼をかかさない厳格さを保っているのが特徴です。





シシたちの豪壮な踊りの前で「ササラ」のリズムをとる女児たち。赤を基調とした花笠と衣裳がひときわ目につく。

公演日

8月17日

主な公演場所

鶴岡市八色木　皇大神社・薬師神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
藤島駅よりタクシー …… 10分

問い合わせ先

鶴岡市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0235-57-4868

庄内地区・鶴岡市

木野俣獅子踊（きのまたししおどり）



昭和29年以来5月5日の熊野神社春祭りで奉納公演を行っていますが、それ以前は8月13日に行っていたといいます。これまで紹介してきた「獅子郷」のシシ踊りとはまったく異なる系統のシシ踊りです。シシは7頭であり、「中ジシ」は雄で黒色、2本のツノを持ちます。「矢来ジシ」も雄で赤色、二股ツノを立てます。「雌ジシ」は緑色で一本ツノです。「ひらジシ」は4頭で黒色・青色・赤色・白色でツノを持っていません。シシ頭は神社のお札を貼って作った張り子にニス塗りをしたものです。6人の女装したササラ摺り、ひょっとこ・おかめの道化役もいます。口上があるのも庄内のシシ踊りではめずらしいもので、その独自色が注目されます。



シシとササラ摺りが交互に並んで輪踊りを行う。女装したササラ摺りが六人と多いのが特徴である。











公演日

5月5日

主な公演場所

鶴岡市温海町木野俣　熊野神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
　あつみ温泉駅よりタクシー …… 10分
庄内交通バス
　木の俣郵便局前停留所より徒歩 …… 7分

問い合わせ先

鶴岡市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0235-57-4868

庄内地区・酒田市

青沢獅子踊（あおさわししおどり）



8月14日に梅林寺（曹洞宗）で行う施餓鬼（施食）供養とともに境内で踊りを奉納します。その際には供養で使用した梵天をシシ頭に付けて、背中には施餓鬼旗を下げて踊ります。17日梅林寺夜会式（夜7時以降）でも施餓鬼旗を背にした同じ姿で踊ります。この踊りは「シシ跳ね」といわれ、跳ねる動作も多く躍動的な踊りからそういわれております。四角形の花笠をかぶった1人の「中踊り（中立）」の存在も目立ちます。



シシは写真のように遠くへ跳ねるので「シシ跳ね」ともいう。背中には「施餓鬼旗」（五行色の布地）を垂らすのが特徴である。



中踊りは近隣のシシ踊りは太鼓を腹にかかえて打ち鳴らしますが、青沢の場合は太鼓を持っていない点が異なります。

公演日

8月14日

主な公演場所

酒田市北青沢　梅林寺

主な公演場所への交通アクセス

酒田市乗合福祉バス（ぐるっとバス）
南ノ前田停留所下車

問い合わせ先

山形市教育委員会社会教育青少年課
TEL.023-641-1212（内）626

庄内地区・酒田市

桜林獅子踊（さくらばやししおどり）



桜林集落は1590年頃に開発されたといいますが、桜林獅子踊は江戸時代には存在したことが考えられます。大型で四角形の花笠をかぶった「中踊り」の太鼓や唄い手の歌に合わせて、雄ジシ・雌ジシ・役ジシ・子ジシ（2頭）・嬉しやのシシ6頭で構成されます。8月13日の「幕付け」から始まって17日に集落の鎮守である山神社、そして林秀寺（曹洞宗）で奉納公演が行われています。シシの腰には「山之神社」「白山姫大神」と書いた白布を下げます。また背中には竹に五行色の紙を巻き付けた鮮やかな「腰当て」を持っています。シシが手にする「鳴輪」の金属性の音色も特徴的です。



背中に持つ「腰当て」には五行色の鮮やかな紙を巻き付けており、中国伝来の思想である陰陽五行の影響がこのような所にもみられる。



公演日

8月17日

主な公演場所

酒田市桜林字惣田　山神社・林秀寺

主な公演場所への交通アクセス

酒田市乗合福祉バス（るんるんバス）
桜林停留所下車

問い合わせ先

酒田市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0234-24-2994

庄内地区・酒田市

鹿島獅子踊（かしましししおどり）



毎年8月15日に集落の鹿島神社に奉納公演を行います。シシは6頭で構成されており、大きな四角形の花笠をかぶった「中踊り」の太鼓の音と唄い手に合わせて、雄ジシ2頭・雌ジシ1頭・白鷺ジシ2頭・投草1頭が踊ります。「中踊り」は小高い塔の造形を真ん中に立てた美しい四角形の花笠を被っており、小刻みに足を動かしながら太鼓を打ち鳴らします。シシたちはそれを囲んで踊りますが、シシは猪と考えられており6頭が3つの井桁マークのついた幕をさかんに振り回しながら躍動的に踊ります。



シシたちに取り囲まれているのが「中踊り」である。「中踊り」はシシたちのリード役をはたす場合もある。



公演日

8月15日

主な公演場所

酒田市北俣字鹿島　鹿島神社

主な公演場所への交通アクセス

庄内交通バス（海ヶ沢行き）
JR羽越本線砂越駅から鹿島まで……　25分

問い合わせ先

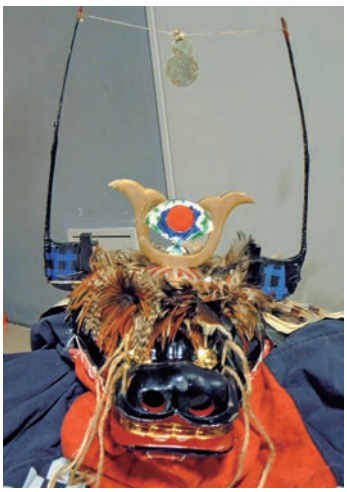
酒田市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0234-24-2994

庄内地区・酒田市

仲町獅子踊（なかまちししおどり）



明治17年に当地方にコレラが蔓延して死者が多数出たときに、大沼新田出身の人々がシシ踊りをはじめたという伝承があります。毎年5月1日に酒田市山寺（仲町）にある山寺皇大神社の例祭で奉納公演を行っていますが、そのほかに愛宕神社境内や仲町全戸の庭先で踊っています。シシ5頭とササラ摺り2人、棒使い2人、唄い手数人の構成ですが、シシの頭や長い幕の中でシシみずから太鼓を打ち鳴らしながら唄い手の歌とササラに合わせて踊るスタイルは、旧藤島町・余目町などの「獅子郷」にみられるシシ踊りと似ています。ちなみに余目町は最上川をはさんで仲町のちょうど南側に位置しています。





位置として最上川北部「飽海エリア」に属するが、シシの姿はまるで南部「田川エリア」にある「獅子郷」団体とそっくりであることが注目される。

公演日

5月1日

主な公演場所

酒田市山寺字欠ノ上　山寺皇大神社

主な公演場所への交通アクセス

庄内交通バス（海ヶ沢行き）
松嶺本町停留所下車

問い合わせ先

酒田市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0234-24-2994

庄内地区・庄内町

清川獅子踊（きよかわしし おどり）



毎年8月18日に清川地区の御諸皇子神社の例祭で奉納されます。この日は「清川まつり」でもあり、山車行列とともにシシ踊りは家々の前の路上でも踊ります。5頭のシシとササラ摺り、唄いからなります。シシは青色の長幕に身をつつみながら腹にかかえた太鼓に合わせて規則的に踊ります。シシのカシラの保管箱には「文化6年　別当不動院」と墨書されており、1809年の江戸時代後期には清川獅子踊は存在していたことが考えられます。最も特徴的なものはシシのカシラで、置賜地域の3頭ジシの張り子のカシラと大変似ているのは何故なのかが注目されます。





御諸皇子神社例祭の神輿渡御や山車行列とともに地区の目抜き通りを行進し、家々の前の路上で踊りを披露して歩く。

公演日

8月18日

主な公演場所

庄内町清川字花崎　御諸皇子神社

主な公演場所への交通アクセス

JR陸羽西線
清川駅より徒歩 …… 5分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

庄内地区・庄内町

四ヶ村獅子踊（しかむらししおどり）



「太刀使い」「棒使い」は子どものみならず青年たちも交じって力強く演じているのが印象的である。

四ヶ村とは旧十六合村（いざあい）の主殿（とのも）新田・中野・南野新田・南興屋をいい、この四集落で1つのシシ踊りを構成してきました。シシは5頭で、中ジシ・剣ジシ・供の雄ジシ・雌ジシ・白鷺ジシからなります。その他に小学1、2年生が女装するササラ摺りと小中学生が演じる太刀使い2人・棒使い2人もいます。演目は「大踊」「橋掛かり」「弓踊」の3部があり、全部を踊りきるにはおよそ4時間もかかります。毎年8月15日に4集落の鎮守である各神社で奉納公演を行い、依頼先の庭で踊っています。余目新田、古関、西袋、吉岡・生三の各獅子踊は四ヶ村獅子踊を手本としており、いわば子獅子（弟子）にあたります。



公演日

8月15日

主な公演場所／交通アクセス

庄内町中野字前割　皇大神社
JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 13分
JR陸羽西線
　狩川駅よりタクシー …… 15分

庄内町主殿新田字前割　皇大神社
JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 12分
JR陸羽西線
　狩川駅よりタクシー …… 17分

庄内町南野新田字西割　八幡神社
JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 11分
JR陸羽西線
　狩川駅よりタクシー …… 14分

庄内町南興屋字前通割　八幡神社
JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 11分
JR陸羽西線
　狩川駅よりタクシー …… 18分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

庄内地区・庄内町

家根合獅子踊（かねあいししおどり）



梅津三五郎という人が小中島獅子踊（旧藤島町）を習得して家根合に持ち込んで人々に伝えたのが家根合獅子踊だといわれています。村の生活をおびやかす悪霊がいて、これを鎮めて追い払う強力な霊物としてどうしてもシシの踊りが必要だったと伝えられています。家根合では梅津三五郎家が代々「獅子宿」の役割を担っており、そこで「精入れ」や「精戻し（精抜き）」（家根合では「獅子殺し」）の厳粛な儀式を執り行ってきました。「獅子郷」ではシシ頭部の鍬形部分には描かれるものが共通する場合がありますが、家根合の白鷺ジシは「葡萄に鼠」が特徴です。





「獅子郷」のシシはみずから太刀を手にして演じる場面があり、これは他のシシ踊りには見られない特徴である。

公演日

8月15日

主な公演場所

庄内町家根合字菖蒲島　皇大神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 9分
JR陸羽西線
　狩川駅よりタクシー …… 11分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

庄内地区・庄内町

古関獅子踊（ふるせきししおどり）



奥山利兵衛という人が南興屋村に奉公していた際、四ヶ村獅子踊を習って村に帰って教えたという伝承があります。したがって、四ヶ村獅子が親獅子で余目新田、吉岡・生三、西袋の各獅子踊は兄弟獅子にあたります。古関はじめ四ヶ村、四袋は盆の入りの旧暦7月7日にカシラに霊を入れる「精入れ」を行ってきました。古関にある弘化2年（1845）の記録では、村々を興行して回る「商売獅子」（古関では「本舞獅子」ともいう）は「精入れ」の翌日7月8日から8月1日まで行っており、それはなんと30か村に及んでいたことがわかります。





獅子が身につける幕には波紋や巴紋、熨斗目紋などが描かれているが、「獅子郷」の他団体には鱗紋や千鳥紋などもみられる。

公演日

8月15日

主な公演場所

庄内町古関字古館　白山神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 12分
JR陸羽西線
　南野駅より徒歩 …… 18分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

庄内地区・庄内町

西袋獅子踊（にしぶくろしし おどり）



近くの四ヶ村獅子踊から教えてもらい踊ったのが最初であるという伝承があります。昭和30年（1955）以来中断していましたが、昭和51年（1976）に復活をとげることができました。毎年8月13日の皇大神社秋祭りで奉納公演を行っています。シシの構成は5頭で、中ジシ・雌ジシ・剣ジシ・虎ジシ・白鷺ジシからなります。そのほかの演じ手として子ども2人の太刀使いと大人2人の棒使いがいます。楽器は子ども2人のササラ摺りもいます。なお、シシのカシラに対する儀礼である「精入れ」は旧暦7月7日、「精戻し」は7月23日に行ってきました。





女児の「ササラ摺り」であるが、ササラが細く長いのが特徴である。このように花笠は顔を覆わず大人が頭上で支えているケースもみかけられる。

公演日

8月13日

主な公演場所

庄内町西袋字村立　皇大神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
　余目駅よりタクシー …… 11分
JR羽越西線
　西袋駅より徒歩 …… 13分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

庄内地区・庄内町

余目新田獅子踊（あまるめしんでんししおどり）



宝暦7年（1757）5月に最上川の大洪水があり流域の村々は水没して島のようになったといわれますが、余目新田村は運良く村の流失を免れたといいます。村の人たちはそれは集落の鎮守である住吉大神のご加護であろうと考え、宝暦8年から毎年シシ踊りを奉納してきたと伝えられています。現在は5月30日の住吉神社例祭で「神宿」からシシを先頭に賑々しく「くねり」（行列）を行い、悪病退散や五穀豊穣などを祈願して奉納公演を行っています。踊りは四ヶ村から習ったとされており四ヶ村獅子踊とは親子関係にあります。また古関獅子踊とは兄弟獅子といわれています。





「太刀使い」「棒使い」などの子どもたちの参加は、保存会の大人たちを勇気づけ民俗芸能に活気さをもたらす源泉でもある。

公演日

5月30日

主な公演場所

庄内町余目新田字西町　住吉神社

主な公演場所への交通アクセス

JR羽越本線
余目駅よりタクシー …… 9分
徒歩 …… 27分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

庄内地区・庄内町

吉岡・生三獅子舞（よしおか・いくさんしし まい）



毎年8月15日に吉岡地区の鎮守皇大神社例祭で奉納公演を行っています。この皇大神社では神主のリードでシシに精霊を入れる「生（しょう）入れ」儀礼を行ってから踊り練習が始まります。奉納公演を終えれば集落内で祝いごとのある家の依頼を受けて「門かけ」と称して庭先で演じています。シシは「獅子郷」と同じ構成の5頭からなります。このほかに子どもが演じる棒使い・太刀使い・ササラ摺りも伴います。最後は神社で唄を歌いながら「生抜き」儀礼を行って終了しますが、その時にシシから精霊を抜き取るため太刀使い2人が「エィー」と叫んで刀を振り降ろす所作が注目されます。





吉岡地区の皇大神社例祭で練り歩くシシたちの姿は、異界からの訪問者のようであり、一方では地域にとって古くから慣れ親しんだ存在でもある。

公演日

8月15日

主な公演場所／主な公演場所への交通アクセス

庄内町吉岡字東北裏　皇大神社
JR羽越本線
余目駅よりタクシー……11分
JR羽越西線
西袋駅より徒歩……27分

庄内町生三字奥沼田　公民館
JR羽越本線
余目駅よりタクシー……11分
JR羽越西線
西袋駅より徒歩……29分

問い合わせ先

庄内町教育委員会社会教育課
TEL.0234-56-3312

中断中のシシ踊り

庄内地区・鶴岡市
大谷獅子踊（おおやししおどり）





隣り合っている大川渡地区と谷地興屋地区の両集落が共同で伝承してきたのが大谷獅子踊です。集落の大地神社の記録には文化2年（1805）にシシ踊りが奉納されていることから、大谷獅子踊は江戸時代後期にはあったのだろうと考えられています。毎年奉納されるわけではなく、長老から踊りの許可が得られなければ踊れなかったといいます。8月7日にシシの頭に精霊を吹き込む「精入れ」の儀式を行ってから始められ、8月15日の大地神社の例祭に奉納されてきました。かつては3日間豊作祈願のため村から村へと踊り巡ったといいますが、「獅子郷」ではこのことを「商売（興行）獅子」といいました。

公演日
8月15日

主な公演場所
鶴岡市大川渡　大地神社

主な公演場所への交通アクセス
JR羽越本線
藤島駅よりタクシー …… 6分

問い合わせ先
鶴岡市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0235-57-4868

中断中のシシ踊り

庄内地区・酒田市
新田目獅子踊（あらたためししおどり）





シシの呼び名は、「一のシシ」「二のシシ」「雄ジシ」「白鷺ジシ」「投草」というもので5頭の構成です。投草がシシの中心であり頭上に日の丸の飾りを立てています。白鷺ジシは雌ジシの役をつとめています。シシは太鼓を持ちませんが50㎝ほどの飾りバチを持って踊ります。8月14日に本楯地区の梵昭寺および近隣2か寺で行われる施餓鬼（施食）供養で使用する五色の施餓鬼旗（細長い布地）をまとめて背中に垂らして踊ります。それは一瞬ミノを着用しているかと思われるほどの多さです。シシ踊りが本来は死者供養の踊りであることがよくわかります。

公演日
8月14日

主な公演場所
酒田市本楯字新田目　梵照寺

主な公演場所への交通アクセス
JR羽越本線
本楯駅より徒歩 …… 10分

問い合わせ先
酒田市教育委員会社会教育課文化財係
TEL.0234-24-2994

資料編

・子どもシシ踊り（11団体）
・山形県シシ踊りマップ
・山形県内のシシ踊り一覧

子どもシシ踊り

村山地区・天童市

高擶聖霊菩提獅子踊（たかだましょうりょうぼだいししおどり）

昭和55年頃に3年生の表現活動として、大人の獅子踊り会の方々の指導を受けて始まる。昭和60年度に「高擶こども獅子踊り」として地区民文化祭で発表したことから正式に学校としての取り組みが始まった。平成4年の「べにばな国体」をきっかけに、子どもの親しみやすい踊りに作りかえて現在に至っている。



子ども獅子踊りの担い手は3年生からである。踊り手は3年生から5年生が担当し、太鼓と笛は6年生が行う。太鼓の構成は宮太鼓が1人、大太鼓が4人、平太鼓が7人である。演目は「だんだか」「しかたね」「みちおどり」の3曲を行うことができる。

踊りの披露の機会としては、小学校の秋季大運動会と地区の敬老会がある。敬老会では3年生と6年生の2学年が参加している。

引継ぎ会は一定の期間をかけて中間休みや昼休みを利用して行っているが、6年生は5年生へ太鼓と笛を、3年生は2年生に踊りを、それぞれ引き継いで伝統を絶やさないようにしている。

子どもシシ踊り

村山地区・東根市

長瀞猪子踊（ながとろししおどり）

平成元年に長瀞小学校4年生から6年生までの児童を勧誘して猪子踊りクラブが発足した。現在は3年生から6年生まで参加しており学年の幅が広がっている。例年5月初めに保存会長と踊り手会長が長瀞小学校に出向き、定例の朝礼時に募集を行い毎年約20人の参加を得ている。

猪子踊りクラブの第1回目は、参加児童と保護者に長瀞猪子踊りの由来等について勉強会を行い、踊りに対する理解を深める学習を行っている。実際の練習は、夏休みの午後7時30分から9時まで長瀞公民館で行っている。踊り・太鼓・笛などそれぞれ担当ごと踊り手会のメンバーが指導する。

踊りを披露する機会は、東根市生涯学習フェスティバル、全国子ども芸能フェスティバル、地区かりがね祭（文化祭）など毎年各種事業へ多く参加している。近年、猪子踊りクラブの卒業生が踊り手会に入会して猪子クラブの小学生を指導する、という伝統芸能の継承にはとても好ましいローテーションができつつある。



子どもシシ踊り

村山地区・村山市
稲下鹿子踊（いなくだししおどり）



平成19年に、16年ぶりとなる稲下鹿子踊が奉納された。地区内の大きな事業の完成を記念したものであった。この時の踊り手のメンバーは、地区内の若者が集められ、約3か月に及ぶ練習を経て、稲下稲荷神社への奉納にこぎつけた。また、平成21年11月には、日本青年団協議会主催の「全国青年大会」（東京）出場、並びに出場団体を代表しての明治神宮本殿前での奉納公演もこなした。メンバーらの間では、練習している間から、この踊りを将来に向けいかに継承していくかが課題として話に出されていた。

地区の大人は、子どもの頃、鹿子踊を見て、また笛太鼓の音色を聞いて育った記憶が、大人になってからも忘れられないという。子ども時代に見聞きするだけでなく、実際に体験させられないかということから、平成21年に地区内の小学生を対象に「稲下子ども鹿子踊り」を発足させた。稲下地区内の子どもたちのみならず、地元戸沢小学校全校生徒を対象に興味がある児童を対象とし、冬の期間10月頃から、月2回、主に週末の夜、公民館で練習を行ない、3月末に地区公民館で発表会を行なっている。

子どもシシ踊り

最上地区・新庄市
萩野鹿子踊（はぎのししおどり）

平成25年に地区住民および子どもたち自らが地域に伝わる民俗芸能を継承していきたいという意向を示したことから、子どもへの伝承活動が始まった。9月から11月の週1回夜に萩野地区多目的研修センターにて萩野鹿子踊保存会の方々から指導を受けて小学生たちの練習が始まった。10月は萩野小学校でも保存会のビデオを教材にして独自に練習を行った。こうして平成25年度に萩野小学校の文化祭「萩小祭」（11月3日）で6年生が踊りを発表することができた。平成26年度の萩小祭でも6年生13人が鹿子踊りの演技を披露した。残念ながら来年度から萩野小学校は閉校となり小中一貫校「萩野学園」に統合されるが、それでも萩野鹿子踊りは続けていきたいとしている。



子ども シシ踊り

置賜地区・長井市
平山獅子踊（ひらやましししおどり）



平野小学校で平山獅子踊り保存会の指導を受けて獅子踊りが始められてから平成26年度でじつに32年目となる。毎年4月に開講式を行って保存会の師匠の方々から指導を受け、6年生は踊り、笛、口上などに分かれて演習を開始する。習得するのは、道笛・入庭・田楽・花吸・三角踊り・火の輪くぐりなどの演目である。平成26年度は黒獅子まつり、野川小水力発電所開所式、小学校創立記念式、日本一さくらんぼ祭り、リバーヒル訪問など多くの場で発表できた。

毎年12月には獅子踊り引き継ぎ式を行い、6年生最後の獅子踊りを披露し5年生へのバトンタッチが行われる。4年生もその姿を見学してやがて自分たちの番が来るのだと心を引き締める。平小獅子踊りは平成26年度の山形県教育公務員弘済会が主催する「やまがた未來賞」を受賞した。11月25日に山形市で授賞式があり、児童代表が出席した。式では笛の一節を披露し、獅子踊りの由来とこれからの決意を述べた。これからは、副賞で獅子踊りの纏や浴衣等を新調する予定である。

子ども シシ踊り

置賜地区・長井市
五十川獅子踊（いかがわししおどり）

昭和57年に、地元に伝わる五十川獅子踊りについて高学年を対象にした体験学習として学校教育に取り入れたのが始まりである。それ以降、学校の「ふるさと学習」の一環として毎年6年生が継承活動に取り組んできた。平成12年度からは「総合的な学習の時間」の中で教育的価値を明確にして行っている。踊りは小学生用に簡易にアレンジ、再構成して約20分程度にまとめられている。

練習会は10月に入ってから約2週間おきに3回ほど午後6時30分から2時間、パートごとに分かれて行う。公民館での「致芳地区文化祭」の公演に向けての練習である。11月に入ってからも1回ほど午後1時50分から1時間ほど行う。これは「置賜こども芸術祭」の公演に向けての強化練習である。そのほか長井市特別養護老人ホーム慈光園での公演や致芳小学校での発表会なども行っている。



子ども シシ踊り

置賜地区・米沢市

梓山獅子踊（ずさやましししおどり）



昭和62年頃から、小学校・公民館・保存会が一体となって子どもたちに獅子踊りを教えられないかの懇談会を持った。その結果、平成2年になって梓山地区の小学3年生以上の生徒30人位が集まって夏休みに練習を開始した。保存会の指導者は上組と下組の子どもたちがすぐに覚えられる演目・内容の一部分を選んで指導した。こうして8月16日に法将寺境内で、保存会の踊りの前座的なものとして初めて子どもの獅子踊りが披露された。当時は獅子踊りの衣裳・用具はまったくなく、子どもたちは獅子のカシラを被ることなく酒屋の法被と短パン、まめしぼりのハチマキ姿で約10分間踊った。

しかし、3年目に入った頃に子ども用の獅子のカシラ30人分を師匠であった我妻一男氏が自ら製作し、さらに衣裳は上着のみ業者に依頼して製作し、翌年は袴を準備。平成7年に子どもたちはようやく完成した姿で法将寺本堂で踊ることができた。平成25年からは子どもたちは上組と下組に分かれ、上組は8月16日法将寺、下組は15日松林寺にて保存会と一緒に演技を披露している。

子ども シシ踊り

置賜地区・川西市

小松豊年獅子踊（こまつほうねんししおどり）

川西町に継承される山形県指定民俗文化財である小松豊年獅子踊の後継者育成のため、昭和47年に川西中学校の前身である新山中学校に郷土芸能クラブが設立され練習が開始された。その後、旧川西中学校から第一中学校、そして現在の川西中学校へとその取り組みが受け継がれている。

主に夏休みと中学校の合唱祭を前に、保存会の方々の指導を得ながら一緒に練習を重ねている。具体的には、7月26日から8月15日の間に夜7時から9時まで練習し、8月16日の大光院本堂前の公演、町内5か所などでその成果を披露する。平成25年は練習に加わる中学生が19人と多かったので、約10人のみ必要な本番の公演では中学3年生を優先して踊りを披露している。

毎年10月29日から31日の3日間は夜7時から9時まで練習し、11月1日に行われる中学校の合唱祭で披露している。



子ども シシ踊り

庄内地区・鶴岡市

添川両所神社御獅子舞（そえかわりょうしょじんじゃおししまい）



もともと東栄地区には、東堀越地区と添川地区に継承されている獅子踊りと獅子舞の2つの伝統芸能があったが、平成4年に「小学校に獅子踊りを取り入れる実行委員会」が発足した。それによって、東堀越と添川の芸能のそれぞれの見せ場を中心に20分程度の小学生用にアレンジした踊りが完成した。平成5年には正式に東栄小学校の教育活動に位置づけられ、全校生徒が東堀越と添川地区の2グループに分かれて獅子踊りを習得する活動が始まった。現在では総合的な学習の時間や朝活動の時間などを使って練習を重ねている。

1年生から3年生までは竹打ちを行い、キッタンダンコの太鼓のリズムを学ぶ。4年生は実際に太鼓を身につけて踊りを習う。5年生になるとカシラをつけて袴をはいて踊る。最終学年の6年生では完全に正装をして踊る、という系統的な練習を積み重ねている。年間では学校行事はもちろん地区の祭りなどかなりの行事で踊りを披露している。引継ぎ発表会では6年生から5年生に引き継ぐ「儀式」を毎年行っている。

子ども シシ踊り

庄内地区・鶴岡市

東堀越獅子踊（ひがしほりこししししおどり）

もともと東栄地区には、東堀越地区と添川地区に継承されている獅子踊りと獅子舞の2つの伝統芸能があったが、平成4年に「小学校に獅子踊りを取り入れる実行委員会」が発足した。それによって、東堀越と添川の芸能のそれぞれの見せ場を中心に20分程度の小学生用にアレンジした踊りが完成した。平成5年には正式に東栄小学校の教育活動に位置づけられ、全校生徒が東堀越と添川地区の2グループに分かれて獅子踊りを習得する活動が始まった。現在では総合的な学習の時間や朝活動の時間などを使って練習を重ねている。

1年生から3年生までは竹打ちを行い、キッタンダンコの太鼓のリズムを学ぶ。4年生は実際に太鼓を身につけて踊りを習う。5年生になるとカシラをつけて袴をはいて踊る。最終学年の6年生では完全に正装をして踊る、という系統的な練習を積み重ねている。年間では学校行事はもちろん地区の祭りなどかなりの行事で踊りを披露している。引継ぎ発表会では6年生から5年生に引き継ぐ「儀式」を毎年行っている。（上段と同文）



子ども
シシ踊り

庄内地区・鶴岡市

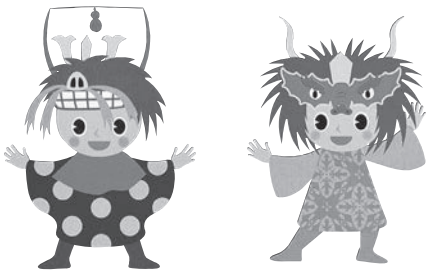
渡前獅子踊（わたまえししおどり）



平成9年に渡前獅子踊りが7年ぶりに復活した際に、それを見た渡前小学校の児童たちが感動して、自分たちもぜひ踊ってみたいと練習を繰り返して踊ったことから始まった。その結果、平成9年11月に3年生25名は学習発表会で「子ども獅子踊り」を初めて披露できた。翌10年3月には、渡前獅子踊り保存会の方々との話し合いで、毎年3年生が地域学習として地元の獅子踊りを学んで発表していくということが決まり、それ以降続けられて現在に至っている。このほかに、4月の渡前小学校入学式でも披露したり不定期に地域の養護施設等を訪問して披露している。

地域に昔から受け継がれてきた伝統文化を学習し、実際に体験的に踊ることを通して地域を深く認識できる。獅子踊りに込められた願いや継承してきた方々の思いなど、その歴史的背景を知ることを通して今の時代に生きる幸せに感謝する。獅子踊りを通して人々との関わり合い、価値ある交流活動が体験できる。このようなことを子どもたちに学ばせている。

当欄の「子どもシシ踊り」では、学校や地域で保存会の指導を受けて組織として成立している団体のみを掲載しました。このほか、保存会の方々と一緒に多くの子どもたちがシシ踊りに参加している事例がたくさんあることを付記しておきます。



山形県シシ踊りマップ


最上地区
庄内地区
村山地区
置賜地区
32 33 34 35 44
酒田市
16 17
新庄市
37 38 39 40 41 42
庄内町
27 28 29 30 31 43
鶴岡市
11 12 13 14 15
村山市
9 10
東根市
4
寒河江市
7 8
大江町
2
天童市
3
中山町
5 6
朝日町
1
山形市
23 24 25
長井市
26
小国町
21
川西町
22
飯豊町
18 19 20
米沢市

山形県内のシシ踊り一覧

	市町村	名　　称	主 な 公 演 日	主 な 公 演 場 所
村山地区				
❶	山 形 市	鹿楽招旭踊	7月中旬　紅花まつり	山形市　高瀬地区
❷	天 童 市	高擶聖霊菩提獅子踊	8月22日	天童市高擶字新町　河上神社
❸	中 山 町	土橋獅子踊	5月3日	中山町土橋　玉昌寺
❹	寒河江市	旭一流内楯獅子踊	9月中旬（4年毎）　寒河江まつり	寒河江市内楯　内楯地区～寒河江八幡宮
❺	朝 日 町	角田流八ツ沼獅子踊	閏年旧暦8月15日	朝日町三中字八ツ沼　春日神社
❻	朝 日 町	角田流大谷獅子踊	8月16日　（送り盆）	朝日町大谷　永林寺
❼	大 江 町	左沢三区獅子舞	9月中旬　おおえ秋まつり	大江町左沢　左沢地区（町内・JR左沢駅前）
❽	大 江 町	深沢獅子踊	9月中旬　おおえ秋まつり	大江町左沢　左沢地区（町内・JR左沢駅前）
❾	東 根 市	長瀞猪子踊	4月第2日曜日	東根市長瀞　日枝神社
❿	東 根 市	沢渡獅子舞	9月第2または第3日曜日	東根市泉郷字入　稲荷神社
⓫	村 山 市	天神湯野沢鹿子踊	不定期（地区内の行事や祝い事）	村山市湯野沢　天満神社
⓬	村 山 市	稲下鹿子踊	不定期（地区内の行事や祝い事）	村山市稲下　稲荷神社
⓭	村 山 市	長島鹿子舞	不定期（地区内の行事や祝い事）	村山市長島　長島地区
⓮	村 山 市	深沢豊年獅子踊	不定期（地区内の行事や祝い事）	村山市富並字深沢　山王神社
⓯	村 山 市	上中原奈良朝鹿ノ子舞	不定期（地区内の行事や祝い事）	村山市上中原　上中原地区
最上地区				
⓰	新 庄 市	萩野鹿子踊	8月26日　新庄まつり	戸沢神社・護国神社
⓱	新 庄 市	仁田山鹿子踊	8月15日 8月26日　新庄まつり	新庄市仁田山　地蔵堂 戸沢神社・護国神社
置賜地区				
⓲	米 沢 市	万世梓山獅子踊（上組）	8月16日	米沢市万世町梓山　法將寺
⓳	米 沢 市	万世梓山獅子踊（下組）	8月15日	米沢市万世町梓山　松林寺
⓴	米 沢 市	綱木獅子踊	8月15日	米沢市綱木　円照寺跡地
㉑	川 西 町	小松豊年獅子踊	8月16日 8月27日	川西町上小松　大光院 川西町上小松　諏訪神社
㉒	飯 豊 町	中獅子踊	8月14日	飯豊町　中地区
㉓	長 井 市	平山獅子踊	5月10日前後	長井市平山中里　平山熊野神社
㉔	長 井 市	五十川獅子踊	9月第1日曜日	長井市五十川　蘊安神社
㉕	長 井 市	勧進代獅子踊	8月15日	長井市勧進代　勧進代総宮神社
㉖	小 国 町	舟渡獅子踊	9月中旬（2年毎）	小国町舟渡　舟渡活性化センター
庄内地区				
㉗	鶴 岡 市	添川両所神社御獅子舞	8月18日	鶴岡市添川字楯ノ沢　両所神社
㉘	鶴 岡 市	東堀越獅子踊	8月18日	鶴岡市東荒屋字押切　新山神社
㉙	鶴 岡 市	渡前獅子踊	8月15日	鶴岡市渡前白山前　五所神社
㉚	鶴 岡 市	八色木獅子踊	8月17日	鶴岡市八色木　皇大神社・薬師神社
㉛	鶴 岡 市	木野俣獅子踊	5月5日	鶴岡市温海町木野俣　熊野神社
㉜	酒 田 市	青沢獅子踊	8月14日	酒田市北青沢　梅林寺
㉝	酒 田 市	桜林獅子踊	8月17日	酒田市桜林字惣田　山神社・林秀寺
㉞	酒 田 市	鹿島獅子踊	8月15日	酒田市北俣字鹿島　鹿島神社
㉟	酒 田 市	仲町獅子踊	5月1日	酒田市山寺字欠ノ上　山寺皇大神社
㊱	庄 内 町	清川獅子踊	8月18日	庄内町清川字花崎　御諸皇子神社
㊲	庄 内 町	四ヶ村獅子踊	8月15日	庄内町中野字前割　皇大神社 庄内町主殿新田字前割　皇大神社 庄内町南野新田字西割　八幡神社 庄内町南興屋字野岡　八幡神社
㊳	庄 内 町	家根合獅子踊	8月15日	庄内町家根合字菖蒲島　皇大神社
㊴	庄 内 町	古関獅子踊	8月15日	庄内町古関字古館　白山神社
㊵	庄 内 町	西袋獅子踊	8月13日	庄内町西袋字村立　皇大神社
㊶	庄 内 町	余目新田獅子踊	5月30日	庄内町余目新田字西町　住吉神社
㊷	庄 内 町	吉岡・生三獅子舞	8月15日	庄内町吉岡字東北裏　皇大神社 庄内町生三字奥沼田　公民館前
㊸	鶴 岡 市	大谷獅子踊	8月15日　※中断中	鶴岡市大川渡　大地神社
㊹	酒 田 市	新田目獅子踊	8月14日　※中断中	酒田市本楯字新田目　梵照寺

◆シシ踊りを活用した地域活性化実行委員会について

1　シシ踊りを活用した地域活性化実行委員会の取り組み

本委員会は、平成23年8月5日に、山形県における地域文化としてのシシ踊りを将来にわたって保存・継承するとともに、その活用により観光交流・地域活性化に寄与することを目的として組織され、文化庁の「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」（平成23・24年）「文化遺産を活かした地域活性化事業」（平成25・26年）による補助を受けて活動した。合わせて4年間で取り組んだ事業内容は次のとおりである。

⑴平成23年度事業
①マップ付き解説パンフ「保存版　山形のシシ踊り［村山・最上地域版］」作成
②ＤＶＤ「保存版　山形のシシ踊り［村山・最上地域版］」作成
③ＨＰ「保存版　山形のシシ踊り［村山・最上地域版］」作成
④公演「シシ踊りの夕べ」4団体出演　3月3日　天童市

⑵平成24年度事業
①マップ付き解説パンフ「保存版　山形のシシ踊り［置賜地域版］」作成
②ＤＶＤ「保存版　山形のシシ踊り［置賜地域版］」作成
③ＨＰ「保存版　山形のシシ踊り［置賜地域版］」作成
④公演「シシ踊りの夕べ」4団体出演　3月2日　天童市

⑶平成25年度事業
①マップ付き解説パンフ「保存版　山形のシシ踊り［庄内地域版］」作成
②ＤＶＤ「保存版　山形のシシ踊り［庄内地域版］」作成
③ＨＰ「保存版　山形のシシ踊り［庄内地域版］」作成
④公演「民俗芸能フォーラム　シシ踊りのつどい」4団体出演　3月8日　天童市

⑷平成26年度事業
①マップ付き解説パンフの地域総合版『山形のシシ踊りガイドブック』作成

2　シシ踊りを活用した地域活性化実行委員会の構成

実行委員およびガイドブック編集委員は次のとおりである。

会　長　菊地　和博
副会長　大川　健嗣（東北文教大学副学長・地域交流研究センター長）
副会長　日原もとこ（ガイドブック編集委員）
副会長　遠藤　正明（事務局長）
委　員　相原　一士（監事・ガイドブック編集委員レイアウト担当）
委　員　芦野　和恵（ガイドブック編集委員）
委　員　芦野　孝志
委　員　井澤　豊隆
委　員　歌丸　琴子
委　員　大泉　渉（ガイドブック編集委員）
委　員　篠原　広悦（ガイドブック編集委員会編集長）
委　員　棚橋美沙希（ガイドブック編集委員）
委　員　盛永　未来
委　員　吉田　悠希（ガイドブック編集委員）
委　員　渡辺　利昭（監事・ガイドブック編集委員）
特別委員　伊勢　博（ホームページ担当）
（平成23・24年度事務局　山形県教育庁文化財保護推進課）
（平成25年度事務局　山形県教育庁文化財・生涯学習課）
（平成23～25年度事務局　東北文教大学・地域交流研究センター）

山形のシシ踊りガイドブック
―楽しく見るための手引書―

監修・執筆　菊地和博（東北文教大学短期大学部教授・文学博士）
編　集　シシ踊りを活用した地域活性化実行委員会
平成二十七年三月二十七日発行
発　行　シシ踊りを活用した地域活性化実行委員会
連絡先　シシ踊りを活用した地域活性化実行委員会
事務局長　遠藤　正明
電　話　〇二三－六九五－二一二六
ＦＡＸ　〇二三－六九五－二五二九
masaaki@yamadera.co.jp
印　刷　株式会社　大風印刷

